

37 室保存用
56 年少労働者資料
8B-7 no. 42

年少労働者余暇状況

実態調査の概要

昭和35年4月

労働省婦人少年局

目 次

I. 余暇の意義及び調査の主眼点

II. 事業場調査

1. 調査事業場数
2. 事業主の余暇効用等についての認識
3. 余暇利用施設等の状況

III. 個人調査

1. 調査年少労働者数
2. 就学等の状況
3. 仕事のある日の余暇状況
4. 休日の回数
5. 休日の余暇利用態様
6. 有給休暇の状況
7. 年少労働者のこづかい
8. 友人、相談相手
9. 新聞、ラジオ、テレビ、映画、読書の傾向
10. 飲酒、喫煙の状況
11. バテング、スマートボール等の娯楽状況

12. 飲食店、喫茶店の利用状況

13. 年々労働者の余暇利用施設等に関する要望

14. サークル、グループ、クラブ、青年団等への参加
活動状況

15. 年々労働者の一般的な希望及関心事

Ⅳ. 週休制、一斉休業等の実施、あるいは余暇増大によつて生じた好、悪事例

I 余暇の意義及び調査の主眼点

この調査における余暇とは、年少労働者が義務づけられた（強制された）労働から解放された自由時間を指すものである。

従って、余暇の範囲を休日、休暇及び終業時間後の自由時間に限定し、労働時間中の休憩時間は、この調査では余暇時に見なしていない。また、労働日と自己の都合等で休み、認められた休日、休暇以外の余暇利用に充てるようなものは、調査として取扱っていない。

調査では余暇を規制する労働時間、休日、休暇及び賃金状況等を先づ把握して、余暇利用の手段、方法、内容に主眼を置いた。

II 事業場調査

調査事業場数

調査の対象となった事業場は、1,502事業場であるが、製造工業、商業別の内訳は次のとおりである。

製造工業 951事業場

事業場数

事業場数 構成比

人

250

2.6%

10 ~ 29人	385	41%
30 ~ 99人	211	22%
100 ~ 299人	51	5%
300人以上	54	6%

商業 551事業場

1 ~ 9人	245	44%
10 ~ 29人	251	46%
30人以上	55	10%

製造業では100人未満の事業場、商業では30人未満の小規模事業場が、それぞれ90%を占めている。

2. 事業主の余暇効用等についての意識

(1) 余暇の必要性について

年少労働者が余暇時間を持つ必要性について、事業主がどの程度の考え方を抱いているかをみると、製造業で「是非必要である」というものが47%、単に「必要である」とするものが45%。商業の事業主では、「是非必要である」40%、「必要である」が47%で、全体を通じて余暇の必要性を認めるものが90%を超えるが、積極的な態度を示す事業主は製造業に多い。

(2) 余暇時間の程度、休日回数について

「仕事のある日（労働日）の余暇時間は何時間位が適当か」の問に対し、2時間、または3時間を適当とするものが約半数を占めている。製造業の事業主は3時間と答えるものが多く、商業では、2時間を適当であるという事業主が多い。

また休日回数については、両部門を通じ、「月4日」、「週休制」が望ましいとするものが最も多く、過半数を占める。次いで「月2日」があげられるが、製造業の13%に対し、商業では5%となっており、月2日の休日を適当とする事業主が多く、1～9人の規模にその比率が高い。

(3) 余暇利用の方法等について

事業主が年少者にどのような余暇の過ごし方を望んでいるかをみると、明日の労働に備えて「休養を十分にとること」を第一にあげている。次いで、仕事に関する知識、技術の習得、珠算、簿記の勉強、または、定時制高校、通信教育等への就学を希望している。次いで、余暇を「スポーツ」「読書」に利用すること。「お茶、お花、洋裁、和裁等」のけい否事や「旅行、ハイキング等」に

充てることを望んでおり、休養、教養的時間のほかで、健全なレクリエーションに利用することを願っている。

反対に余暇生活上好しくないことがらとしては、「夜遊び」、「競輪、パチンコ、麻雀」等の射幸的な娯楽、「不健全な映画」をみること、「映画館に入り浸ること」、「悪い友人との交際」等をあげているが、事業主が年少者に指導や注意する事項では、異性を含めた「交友関係」、「遊び時間（夜遊び、遊び過ぎ）」、「生活態度」が主なるもので、年少者の交友に関するものがオーとなっている。

これらの指導や注意を行う事業主は全体の半数程度となっている。

この交友関係、特に異性との交際については、8割以上の事業主が、「あまり好ましくない」「好ましくない」と否定的態度をとっている。これは、年令的にみれば判断力の稚さ、職場雰囲気の影響を危惧しての理由によるものである。

また、年少労働者が、サークル、クラブ活動を行うことについては、職場内におけるものについては、「好

れい」と考える事業主は約60%で、規模が大きくなるにつれて、その割合も高く、製造業の100人以上、商業の30人以上のところでは80%を上回っている。しかし、職場外のサークル、クラブ活動に参加することには反対的態度をとる事業主が多く、職場内における場合とは逆に、規模が大きくなるに従い、「好ましいと思うものの率が低くなり、製造業の300人以上のところでは31%、商業の30人以上では47%となっている。そして製造業よりも商業の事業主に、職場外のサークル、クラブ活動に参加することを歓迎するものが多くみられる。

3. 余暇利用施設等の状況

事業場に付設されている余暇利用施設は、殆どどの商業の事業場及び製造業の100人以下の規模ではみらるべきものが少ない。施設等では、スポーツ、娯楽、教養、休養等に関するものが多いが、グローブ、ミット、着、将棋盤、図書、椅子等の用具、備品の類で、運動場、図書室（文庫）、休憩室（休養室）等の如きものは少ない。

事業場の地域にある利用可能な施設等も少く「利用でき

る施設がない」と回答した事業場が約80%を占めている。
「利用できる施設がある」と答えた事業場のうちでも、約
30%は年少者が全然利用していないようである。

また、事業主がその地域に要望する公共の余暇利用施設
では、運動場が圧倒的に多く、これに次いで図書館、青年
館ホーム、憩いの家等の施設があげられる。但し別には数
は少ないが、青年学級、宿費学校（講座）、生徒、みぎ、珠
算等の教養の向上、あるいは^{夏休}夏休に役立つ施設等の設立を
希望する声も相当ある。

Ⅲ 人口調査

1. 調査年少労働者数

調査年少労働者数は 4,067人である。

製造工業の年少労働者が2,927人、商業の年少労働
者が1,142人となつてゐる。男女の別では、製造業で男子
1,674人、女子1,253人、商業では、男子636人、
女子506人となる。通勤・住込別の内訳は、通勤者2,0
0人（総数の68%）、住込者1,307人（同32%）で、
製造業では通勤者が2,104人（72%）、住込者が82
3人（28%）で、住込年少者は30%程度に過ぎない。

商業では、通勤者 656人 (57%)、住込者 486人と、通勤者と住込者の比率はほぼ接近している。

規模別の内訳は、製造業で

1 ~ 9人規模	382人
10 ~ 29人	745人
30 ~ 99人	869人
100 ~ 299人	383人
300人以上	383人

10~29人、30~99人の事業場の年少者が最も多く、過半数を占めている。

商業では、

1 ~ 9人規模	402人
10 ~ 29人	512人
30人以上	288人

1人、10~29人の規模にあける年少者が約8割を占めている。

2. 就学率の状況

現在、仕事の余暇を利用して、定時制高校、 evening school、夜間中学、または、和歌歌、ロイヤル、珠算算の学校塾等に

通う者や、通信教育、職業訓練所の教育を受けている年少者数は、製造業に741人（25%）、商業では238人（21%）となっている。製造業の通勤者のうちでは26%、住込者のうちでは22%、商業では通勤で30%、住込で8%の率になり、住込者の就学率は著るしく低い。通勤者のそれは製造業の場合を上回っている。

就学内容別にみると、定時制高校の通学が最も多く割を占め、以下、和洋裁、料理、珠算、タイプ等を習うもの、職業訓練所、通信教育の順となり、男子は、定時制高校、通信教育、職業訓練所で学ぶものが多く、女子は、和洋裁、料理、タイプ等を習うものが大部分である。

3 仕事のある日（労働日）の余暇状況

年少労働者の毎日の余暇時間を規制する労働時間をみると、通勤、住込を通じて、製造業における拘束労働時間は平均7時間20分で、商業では平均拘束時間が7時間19分となっている。

さらに、商業の住込年少者についてみると、拘束時間の平均は、7時間59分となり、その1～2人の規模では7時間25分と長時間に及んでいる。

このような拘束時間の状況は当然の帰結として、余暇時間を規制することとなり、身廻りの始末や入浴等の生理律生的時間や、家事手伝い等の時間を除いた本当の自由時間は、製造業の年少者の場合、1時間～2時間未満のものが28%で最も高い。次いで2時間～3時間以下のものが23%、1時間以下が20%の順となっている。

商業でも1時間～2時間以下の年少者が最も多く、その率は32%である。次に1時間以下のものが29%、2時間～3時間以下が11%で製造業に比較して自由時間が2時間以下の短時間のものが多い。特に住込者の場合は1時間以下のものが31%を占めている。

この短い余暇時間をどのように過しているかをみると、「ラジオやテレビをみる」、「読書をする」、「雑談をして過ごす」が一般の常態のようである。

☆ 休日の回数

休日が週休制または「月4～5日」と答えた年少者は、製造業に約80%みられるが、商業の年少者では46%に過ぎない。また、商業では「月2日」のものが比較的多く、32%とこれに次ぐが、住込の年少者のみでは「月2日」

のものが42%と、更に高率を示している。さらに卸売業と小売業とでは事情が異なり、卸売業で週休の年少者が43%もあるに對し、小売業では24%しかみられない。

5 休日の余暇利用態様

「休日を主にどのようなことに使うか」という問に對し、「映画をみる」と回答した年少者は、通勤、住込、男、女を問わず、最も多く、全調査年少者の60%を占めている。産業及び規模間の差異はあまり認められないが、通勤と住込、男女間の差異は比較的顕著である。すなわち、通勤者で映画(60%)に次いで多いのは「家の手伝い」(28%)、「身廻りの整理」(21%)、「スポーツ」(18%)等となっているが、住込者では、映画の57%に次いで、「身廻りの整理」(22%)、「帰省」(11%)、「スポーツ」(11%)等で、「家の手伝い」(住込先の家事を含む)を行うものは僅か1%にとどまり、かわって「帰省」するものがあげられる。男女間では、男子が「映画」(64%)、「スポーツ」(25%)、「進学、就職」、「家の手伝い」、「身廻りの整理」の順となり、「身廻りの整理」、「家の手伝い」が10%にも満たないのに反し、

女子では映画の55%に次いで「身の回りの整理」が37%、
「家の手伝い」23%と高くなり、「勉学・教養」、「街
に出る」、「けい古事」等の順となっているが、スポーツ
をあげるものは2%に過ぎない。映画以外に通住、男女別
の傾向の殆んど変らないものは「休養をとる」でその率は
27.8%である。

年と若の記録によつて、休日における具体的な生活時間
をみると、「睡眠時間」、「食事時間」、「入浴、化粧、身
回りの整理等の時間」等いわゆる生理的再生産に要する時
間は、調査年と若全体の平均で11.6時間（全生活時間の
48%）、「教養」、「読書」、「勤務先の仕事」等何ら
かの仕事に従事している時間は1.4時間（同5.6%）、「
勉学」、「読書」、「新聞」、「趣味・教養・けい古事」
等に費す時間が1.6時間（同5.7%）、「スポーツ」、「ハ
イキング・旅行等」、「散歩」、「その他のレクリエーショ
ン」等には2.2時間（同5.9%）、「休養、なんとなく過
す」、「雑誌」等に2.2時間（同5.9%）、「交友、訪問」、
「買物等の外出」等に0.9時間（同5.4%）、「映画、観劇」、
「ラジオ、テレビ」、「マージャン、パチンコ等」、「その

他の娯楽」并娯樂的なものに費す時間が8.8時間(同2.4%)、以上のほかに「飲食店、喫茶店」、「のみ屋、バー」等や「その他」に過す時間が、それぞれ0.1時間および0.2時間となっている。以上の生活時間のうち余暇時間を合計すると平均1.1時間程となる。また何らかの形で外出した時間を合計すると4.9時間で、年少者は休日1日の半分は外出していることになる。

生活時間に現われた通住、男女間の相異点をあげると、通住別では、家事、家業をする時間が通勤者に多く、交友・訪問、映画・観劇等に費している時間は往來者に多い。これにづいて、外出時間も通勤者の平均4.7時間に対し、往來者は平均5.5時間と多くなっている。男女間の差異では、スポーツ、交友・訪問、映画・観劇等の時間は男子に多く、住居・身廻りの整理、家事、買物等の外出等の時間は女子に多い。女子では、マージャン、パチンコ等の娯楽には殆んど時間を費していない。然して、男子は外出が多い。女子の平均4.3時間に対して5.5時間と1.2時間以上も上回っている。

6. 有給休暇の状況

有給休暇が全くないと回答しているものが製造業で27%、商業に33%みられる。また、「あつたない」と答えたものがそれと比べる平均、32%と比べ、有給休暇を利用したことのあるほうを比べ、製造業で43%、商業で35%となっている。

有給休暇のあるほう者の1人当りの平均休暇日数は製造業が6.8日、商業は5.9日で、製造業のほう者がやはりよゝゝ。製造業が30~49人と商業が10~29人規模において、条件が異なるなっている。

有給休暇の利用方法としては「旅行・ハイキング」等のレクリエーションや「休養」に充てるものが多い、労働出勤を有給休暇に換替えているものも多くあつてゐる。

7. 年少労働者のこづかい

余暇利用の方法も、内容も、賃金の状況によつて影響されるものと思われるが、調査年少者の賃金は一般に低い。

製造業の1ヵ月の平均手取賃は4394円で、商業の年少者の平均は4117円である。性別の差は殆んど認められないが、実業界の現物給与があるため、仕込者は連勤者より低い。商業の仕込者は特に低く、男子が2203円

女子が30.80円とになっている。従って、余暇利用等には
要なこづかいの額も自ら定まる訳であるが、製造業の年少
者のこづかいの平均が10.63円、商業では11.01円と
商業の年少者のこづかい額はやや製造業を上回っている。

通勤者と住居者の別にこれを見ると、こづかい額では住
居者の方が多くなっている。男女の間では男子の平均がや
や高い。また、東京、大阪等七大都市圏の平均は11.50
円となり、その他の県における平均は9.96円である。

従って、これらの賃金、こづかい額の状況や先に触れた
余暇利用施設等の現状をみると、年少労働者の休日、休暇
等における余暇生活の在り方を自ら限定しているように
思われる。

8. 友人、相談相手

調査年少者のうち約2割のものは友人が^{11人}と答えて
る。家族と一緒に暮らしているため、友人の存在を必要と
しないのか。通勤者に友人のいない割合がより高
く、女子よりも男子に友人を持つものが少い。また、商業
では製造業よりも友人を持つものの比率が高く、職場の友
人よりも職場外の友人を持つものが多い。職場外の友人は

定時制高校や中学時代の級友が大部分である。

友人は殆んど同性に限られているが、異性の友人は職場外のものが多い。

遊びに出掛けるときは、全体の7割以上が友人と行動を共にし、そして仕事上のことや、家庭のこと、職場内外の対人関係、異性に関することなどの一切の悩みや心配事についても、それぞれに関係のある者のほか、友人が相談相手となっており、同僚友人の占める役割は大きなものともみられる。

9. 新聞、ラジオ、テレビ、映画、読書の傾向

(1) 新聞

新聞を「毎日よく読む」ものが製造業では29%、「毎日目を通す」程のもの37%、「時々読む」のが24%、「めったに読まない」が5%となっている。商業の年々若者の場合は、それぞれ23%、39%、28%、8%となり、「毎日目を通す」程度のもので、両者とも最高率を占め、新聞を「毎日よくみる」ものが製造業の年々若者に多く、新聞の余裕がうかがわれる。

通勤者と住居者とでは通勤者に精読するものが多い。

その差は商業部門において著しい。そして男子の方が比較的よく新聞を読んでいるようである。

読石内容は、社会(三面)記事を見るものが最も多く、次に「スポーツ」欄、「映画、演劇」欄、「ラジオ番組、天気予報、広告等」、「小説、漫画」等が多く読まれており、以下「政治、経済、社説」、「家庭婦人、身上相談、職業案内」、「文化、科学、読書欄」等の順となっている。

性別にみると、男子ではスポーツ欄が第一位で、社会(三面)記事、ラジオ番組、小説、漫画、政治、経済欄がこれに続き、女子では第一位に社会(三面)記事があげられ、次いで映画、演劇欄で、以下、天気予報、広告、家庭婦人、身上相談欄の順になっている。

新聞を読まない理由として、「とっていない」、「興味がない」、「暇がない」をあげているが、新聞を全然読まないものはこのいずれかに該当するものであろう。

(2) ラジオ

ラジオの場合では、「毎日よく聴く」ものの割合が新聞を読むものより遙かに高く、47%とあがる。「毎日少し聴くものが25%」、「時々聴く」ものが16%となってい

る。通勤者の方が住込者より一段と多くラジオを聴いており、男²より女子の方にその比率が高い。商業の年少者は規模の大きいところに働く者ほどラジオを聴いているが、製造業では規模による影響はないようである。

聴取番組では、軽音楽・ジャズ・歌謡曲等が一番多く、ニュース・天気予報、スポーツ、演劇・英語・万葉、古典音楽・演劇・物語等の順位である。ラジオがないと答えたものが3%、殆んど聴かないものが1%いる。

(3) テレビ

テレビを「めったにみない」「全然みない」と回答しているものの数が全体の28%を占め、テレビが自宅または勤務先にないものは21%を占めるから、約80%のもののことは自宅または勤務先（住込先）にテレビが備付けられていることになり、全体の約30%のものが殆んどテレビをみないことになる。

「時々みる」ものの率が一番高く38%、「毎日よくみる」、「毎日少しみる」ものがそれぞれ12%、「休日にみる程度」のものが7%の比率になる。

東京、大阪等の七大都市圏の地域では、「毎日よくみる」

ものが21%で、その他の果の2倍の率を示めしている。

娯楽では男子が、商業では女子がよくみており、やはり通勤者の視聴率が高い。

テレビの視聴番組は、若干ラジオの場合と異り、「スポーツ」「ドラマ・演芸等」がほぼ同数で、他より圧倒的に多い。次には「軽音楽・ジャズ・歌謡曲等」が多くあげられているが、「演芸・ドラマ等」、「オペラ・バレエ」、「軽音楽・歌謡曲」等は女子に多く、男子は「スポーツ」番組をみるものが特に多い。

(4) 映画

映画の回数はいくつものものが46%を占め最も高率である。月1回のものが17%、月4~5回15%、たまにみるものが13%で、月6回以上みるものが全然みないものより遙かに多くなっている。性別、通住別、規模り差は殆んど認められない。

月1回以上みるものとたまにみるものの合計数は、全体の72%にあたり、映画内容では「時代劇・西部劇・活劇」をみるものが最高の率を示し、64%であり、男68%、女58%の比率となる。次いで「探偵もの、冒険もの

スリラー 怪奇空想もの」(27%)、「恋愛もの メロドラマ」(23%)、「母もの、ホームドラマ」(22%)をよくみている。女子だけでは時代劇・活劇ものに次いで、母もの・ホームドラマ、恋愛もの・メロドラマがそれぞれ41%、31%と高位を占め、これに次いで「好きな俳優の出る映画」が25%と占め、男子とその傾向が対照的である。

(5) 読書

年少労働者連の大部分は何冊かの本を読んでいるが、小説本が一番多く読まれており48%を占める。週刊雑誌も相当多く読まれる(45%)。娯楽雑誌(平凡、明星等)(44%)の読者も多い。以下多い順から挙げると、漫画本、月刊雑誌(綜合雑誌、婦人雑誌等)、趣味教養に関する本、職業知識に関係ある本、性愛雑誌の順になる。本を読む者の率は女子の方がやや高い。男子は女子に比較して「職業知識に関係ある本」、「漫画本」を読む率が高く、女子の場合は「小説本」、「娯楽雑誌」、「性愛雑誌」が男子に比し高い。

10. 飲酒、喫煙の状況

酒を飲むことのある者は5%みられるが、月1人当りの回

数は平均2回となり、回数よりみた場合、習慣的になつて
いるものはいないようである。1人で酒を飲むものは少く
「友人」、「親兄弟」、「先輩」と飲む場合が多い。その
場所としては、「家」で飲むものが多く、「飲み屋・バー」
「友人宅」で飲む機会がこれに次いで多いようである。女
子の飲酒者も少数ながら、飲む回数は男子と同じく、その
殆んどが友人と共に飲み屋やバーで飲酒している。

毎日煙草を喫っているものは、人数を限定したためか、
飲酒者より割合が少く、ス〜3%のものに過ぎない。「家
で喫うもの」、「人目に立たない所で喫うもの」、「どこ
でてもおれっぴらに喫うもの」の数がほぼ同数となってい
る。

11. パチンコ、スラートボール等の娯楽状況

パチンコ店等の出入りは、事業主が心配する程のことば
なく、「めったにやらない」、「全然やらない」ものが大
部分で、「たまにやる」、「月1回以上やる」ものを合せ
て3%前後である。

12. 飲食店、喫茶店の利用状況

飲食店に月1回以上出入りするものは約20%程度で、

「月2～3回」の回数のものが多い。「たまに入る」ものが30%前後あり、他の半数のものは「めったに入らない」か「全然入らない」ものである。

喫茶店に行くものはもっと少くなり、約80%に近いものが「めったに入らぬ」か「全然入ったことがない」ものである。

13 年少労働者の余暇利用施設等に関する要望

余暇を有効に利用するため、何卒の施設を要望する年少者は、製造業、商業とれとれに約50%ほどめられる。規模等による特別な傾向は認められないが、住込者より通勤者に施設を望む声が多くみられ、事業場の労働時間等についてはその余暇時間に原因するものと考えられる。そして、女子に施設を望むものが多く回答され、各々の性格や立場を表明するものである。

要望する施設は男女の区別なく、運動場、運動用具と運動施設に関するものが圧倒的である。次いで、図書館(室)、趣味教養に関する施設、娯楽施設、休養室の順にあげているが、和洋絃、音楽等の趣味教養施設や、休養施設は女子に多く、娯楽施設を望むものは男子に多い。

14. サークル・グループ・クラブ・青年団等への参加、活動状況

取場の内外を問はず、サークル・グループ・クラブ等には青年団等の団体に参加している年少労働者は、製造業で15%、商業では10%に過ぎない。製造業では事業場の規模が大きくなるに従い、年少者の参加する率が高くなるが、商業では規模との関連性は認められない。男子と女子では、男子の参加者が多く、その活動内容は、スポーツ、趣味旅行、レクリエーション、青年団活動に関するものが多く集まっている。

15. 年少者の希望及び関心事について

先ず「現在余暇を利用してなにがやりたいと思っていること」の質問に対しては、「和洋裁、料理等を身につけたい」の女子の必要知識に意見が集中し、第一位を占める。次に「必要知識」の習得があげられ、男子の年少者の意見が女子の2倍の数を示している。続いて、「勉強」、「スポーツ」をやりたいと答えたものが多く、やはり男子に多い。以下「生活、音楽、手芸、舞踊等」のけい否事を習いたい、「自動車運転免許」をとりたい、「音楽、絵画、書